

# 日光御成道チャレンジ強歩をはじめとする地域に根差した教育活動



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
さいたま市立 大門小学校	大門小学校学校運営協議会 令和2年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 1名	大門小学校SSNプラス(スクールサポートネットワーク)



## 取組の背景及び目標や目指す姿

### 背景

本校学区は、江戸時代より日光御成道の4つ目の宿場、『大門宿』として栄え、現在も街道沿いに大門宿本陣表門(埼玉県指定史跡)と脇本陣(市指定有形文化財)が残されている。6年間を通して、子どもたちが自分が住んでいるこの大門の地域に関心や誇りを持ち、その歴史や地域のよさを知ることを通して地域を大切にすることを育てていきたいと考えた。

### 目標や目指す姿(学校)

笑顔いっぱい、みんなに愛される大門小学校  
～学び、鍛え、夢を育む～

### 目標や目指す姿(地域)

「地域とともにある学校づくり」家庭・地域との連携を深め、子どもたちの健全育成の推進をめざす



## 大門小学校学校運営協議会の

## 特徴

### 委員の立場や属性等

- |                                       |                                     |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 近隣中学校長       | <input type="checkbox"/> PTA顧問      |
| <input type="checkbox"/> 近隣幼稚園長       | <input type="checkbox"/> 保護者・PTA関係者 |
| <input type="checkbox"/> チャレンジ教室代表    | <input type="checkbox"/> 学校代表       |
| <input type="checkbox"/> 主任児童委員       | など、計 <b>15</b> 名で構成                 |
| <input type="checkbox"/> 青少年育成大門地区会代表 | 年間平均 <b>3</b> 回程度開催                 |

### 効果的な運営の工夫

学校運営協議会、SSN、各団体が役割を分担して、本校の学校行事である「チャレンジ強歩」をそれぞれの立場で主体的に運営することができている。

第1回学校運営協議会で承認をいただいたのち、共催3者で当日までの実務について具体的な打合せをした上で、SSNで協議することとした。各団体はさらに詳細についてそれぞれ話し合うことができていた。第2回学校運営委員会では、決定した事項について周知を図ることで円滑に準備を進めることができていた。



## 特徴的な取組と成果・効果

### 学校運営協議会

上記の背景を踏まえて、6年間の教育活動の中で地域の人材を活用することができるよう、学校地域連携コーディネーターが人材バンクを随時更新し、学校はクロスカリキュラムを作成している。これらの内容を学校運営協議会で周知し、効果的に協力いただくことができていた。



5年生田植え

### 地域学校協働活動

見守りスタッフはコース上での児童の安全を確保、休憩所では飲み物等の提供、同行スタッフは児童と共に歩き、昼食をとる中で、数多くの交流が生まれている。行事を通して地域の方が自分たちを支えてくれていることを実感することができていた。



休憩所でスタッフとふれあい

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校が「日光御成道チャレンジ強歩」という本校の立地と歴史を生かした独自の行事を企画立案し、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、共催3者(学校・PTA・青少年育成会大門地区会)の打合せ会、反省会等、行事開催に向け、計画的に話し合う場を設け、それぞれの立場から具体的に助言してもらうようにした。

## 取組

## 成果・効果

学校と家庭、地域が一つになって取り組むことで、家庭・地域との連携を深め、子どもたちの健全育成を推進することを目指している。また、歴史ある地域を生かした教材開発を行い、「生活科」「総合的な学習の時間」において、地域を主軸に、横断的な学習を実施することにより、社会に開かれた教育課程の実現を目指すことができていた。今後もこの取組を通じて、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくり」、目標3「すべての人に健康と福祉を」に寄与していきたいと考えている。

### 【保護者・地域の声】

- ・チャレンジ強歩などで、保護者、地域、学生ボランティア等が一体となって取り組めるのはこの学校ならではのありとてよい。
- ・チャレンジ強歩は地域の連携や地元の歴史も学べ、体力向上も期待できるとてもいい企画だと思う。
- ・地域との関わりが深い学校であるため 周りが協力体制である事がよくわかる。
- ・チャレンジ強歩は、特色あり、地域、家庭も巻き込んだ行事になっていると思う。
- ・チャレンジ強歩という行事に参加して多くの子どもを見守るサポート体制が横断されて過ごしているんだなと知る機会になり感激した。

# 家庭教育支援チーム「てとと」



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
さいたま市立 大久保東小学校	大久保東小学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 1名	大久保東コミュニティ「大けやき」

## 取組の背景及び目標や目指す姿

**背景**  
本校では、基本的な生活習慣が身に付いていない児童や、不登校・不登校傾向の児童が増加傾向にあった。また、保護者会・学校行事への参加や地域との関わりが少ないなど孤立している家庭も少なくない。  
学校運営協議会において、課題を共有する中で委員から様々な情報とアイデアが出され、支援を必要とする家庭へのアウトリーチ活動を行うことになった。学校運営協議会委員と地域学校協働本部の一部のメンバーにより、家庭教育支援チーム「てとと」を結成し活動している。

**目標や目指す姿(学校)**  
輝く笑顔 あいでつながる 大久保東小学校

**目標や目指す姿(地域)**  
出会い、学び合い、高め合い、助け合い、支え合える地域

## 大久保東小学校学校運営協議会 の特徴

**委員の立場や属性等**

<input type="checkbox"/> 学校地域連携コーディネーター	<input type="checkbox"/> 児童センター関係者
<input type="checkbox"/> 保護者	<input type="checkbox"/> 大学教授
<input type="checkbox"/> 民生児童委員	<input type="checkbox"/> 育成会関係者
<input type="checkbox"/> 自治会関係者	など、計 15名で構成
<input type="checkbox"/> 公民館関係者	年間平均 3回程度開催

**効果的な運営の工夫**

- ・委員が月に1回程度、家庭教育支援チーム「てとと」の活動を通して得た情報や、学校や家庭に不安を抱えている児童について共通理解を図る場を設定している。
- ・学校地域連携コーディネーターが学校便り等を地域に配布する際に、積極的に情報交換を行い、学校運営協議会委員と情報や課題等を共有している。
- ・学校地域連携コーディネーターを補佐する役割を担う、本校独自の「地域学校協働活動ファシリテーター」を委員に委嘱している。

## 特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会	地域学校協働活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談担当教員や学校地域連携コーディネーターが不登校児童や孤立している家庭の情報を収集し作成した支援計画を検討する。</li> <li>・地域学校協働本部との具体的な連携・協働の内容を検討する。</li> <li>・委員(民生委員等)が、ネットワークを生かし複数人で家庭を訪問をする。</li> <li>・家庭訪問やサロン等で得た情報を共有し、計画の見直し等を行う。</li> </ul>  <p>学校運営協議会の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部のサロンと図書読み聞かせという既存の活動を組み合わせ、子どもを預けながら親が相談できる時間帯(カフェ)を月1回設定する。</li> <li>・支援計画に基づき、個別に開催通知をポスティングする。</li> <li>・支援計画を共有し、相談体制を充実する。</li> </ul>  <p>サロンの様子</p>

**「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等**

- ・学校運営協議会委員と地域学校協働本部サロン等のメンバーが、足並みを揃えて協働できるよう支援計画を作成した。
- ・学校地域連携コーディネーターをはじめ学校運営協議会委員が、地域学校協働活動本部のボランティア活動(土・放課後の体験や学習支援活動)や子育て講座へ積極的に参加することで、不安を抱える家庭へ意図的に声掛けができるようになった。

**成果・効果**

学校運営協議会の導入により、学校内の教育相談、気軽に相談できるサロン、家庭へのアウトリーチ活動につながり、様々な角度からの伴走型支援体制が整った。また、この活動は、学校・家庭・地域に互酬性をもたらした。不登校等へのきめ細かな対応が可能となった「学校」、子どもが登校できるようになった「家庭」、家庭の孤立化の解消に踏み出せた「地域」で、次のような成果・効果が挙げられる。

- ・委員である民生委員等が保護者の在宅時間に訪問し、相談に乗るなどきめ細かな支援を行ったり、サロンへの参加を促したりすることを繰り返すことで、訪問対象の保護者の声が目立った。
- ・支援に必要な保護者の発見、情報収集、ボランティアや子育て講座、交流の場への参加の働き掛けを行うことにより、家庭を孤立させることなく学校や地域に巻き込むことができた。
- ・定期的に情報や支援を届けたり、家庭訪問を行ったりすることで、「学校の様子やクラスの様子が訪問者の話から分かってうれしいという声」や、6年生の児童からは、「中学校進学への不安な気持ちを訪問者へ伝えられてよかった」という反応がみられた。
- ・訪問した児童が、保護者と一緒に授業中や放課後に来校し、笑顔で帰っていく姿が見られた。
- ・学校運営協議会委員や地域学校協働本部のメンバー、教職員共に家庭と地域のつながりの必要性や重要性を一層感じるようになった。

# 地域の理数教育拠点校として、学校の人的・物的学習資源を小・中学校の児童生徒へ開く特色ある活動



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内中学校運営協議会委員数)	地域学校協働活動
さいたま市立 大宮北高等学校	大宮北高等学校学校運営協議会	地域学校協働活動推進員 0名 0名	小学校への アウトリーチ活動他
	令和3年4月1日 設置	地域コーディネーター 2名 2名	



## 取組の背景及び目標や目指す姿

### 背景

・本校では、さいたま市立高等学校「特色ある学校づくり」計画に基づき、SSHとして全国でもトップクラスのICT教育環境と学習プログラムを活用し、科学技術分野で日本をリードする人材育成を目指している。  
 ・地域の理数教育の拠点となり、「さいたまSTEAMS教育研究指定校」の研究結果と、学校の人的・物的教育資源を、地域の小・中学校等に関わっている。  
 ・令和3年度からの学校運営協議会制度の導入により、特色ある学校づくりの一層の充実に努めている。

### 目標や目指す姿(学校)

SSH指定校として「自主・自律・創造」の校訓のもと、自ら育んだ高い「志」を実現し、次代を担い国際社会をリードする人材を育成する。

### 目標や目指す姿(地域)

生徒の自主性・自律性を伸ばす。



## 大宮北高等学校学校運営協議会 の特徴

### 委員の立場や属性等

<input checked="" type="checkbox"/> 学識経験者	<input checked="" type="checkbox"/> 校長、
<input type="checkbox"/> 関係行政機関	<input checked="" type="checkbox"/> 教頭
<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民	<input checked="" type="checkbox"/> 分掌主任
<input checked="" type="checkbox"/> その他委員会が認める者	など、計 15名で構成
<input checked="" type="checkbox"/> 保護者	年間平均 3回程度開催

### 効果的な運営の工夫

・SSH第2期目として、カリキュラムの見直しなど研究の一層の充実に必要があるため、学校運営協議会の委員に学識経験者や多角的な視点を持った民間企業の方などを人選している。  
 ・学校側の説明に対しての意見交換に加え、実際の教育活動を見ていただく時間を大切にしている。  
 ・学校運営協議会では、学校運営のPDCAを重視した学校評価を行っている。  
 ・学校運営協議会において、実質的な深い熟議がなされ、有用性が発揮されるよう校長自らが運営実態をPDCAサイクルにより評価する。



## 特徴的な取組と成果・効果

### 取組

#### 学校運営協議会

・SSH指定校として、特色ある学校の取組について、「世界に目を向けて『宮原から世界へ』」をテーマに学校運営協議会で熟議を重ね、本校のネイティブ教員が、地域の中学生を対象に英語で化学実験の授業を行うなど、学校の人的・物的学習資源を地域の小・中学校へ開く特色あるアウトリーチ活動を展開している。



学校運営協議会での熟議

#### 地域学校協働活動

・小学校へのアウトリーチ活動として、高校生が小学生に理科の実験の楽しさを紹介  
 ・夏休みに学校を開放し、高校生が小学生の自由研究へアドバイスをする機会を設定  
 ・部活動の生徒による地域貢献活動の実施(コロナ禍で中止)



小学校への出前実験教室

### 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

高校は通学範囲も広く、地元の生徒だけではなく中、地元の小・中学校との連携を深めていることに感謝されており、学校運営協議会でも地域学校協働活動の一層の充実に求める意見等が出されている。そこで、地域住民等の理解を得て協働するために、活動の目的や目標を一致させることが重要と考え、校訓や目指す学校像等の共有を図るとともに、地域学校協働活動について学校側から丁寧な説明を行っている。

### 成果・効果

- 校歌の一節にもある「花咲く未来」を実現するために、この校訓のもと、生徒の「生きる力」をはぐくむことで、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって社会に貢献できる人材の育成を目指しており、地域学校協働活動については、それを具現化するものとする。高校は通学範囲も広く、地元の生徒だけではなく、「学校を核とした地元」の住民等と交流を通して連携・協働することは、生徒一人ひとりの地元への貢献意識の向上にもつながると考える。
- 学校を開放し、高校生が小学生の夏休みの宿題にアドバイスをする「自由研究お助け隊」は、例年500人以上の小学生が参加し好評を得ている。
- 中学生のための「先進的科学教育プログラム ASEP」( Jr. Hi Advanced Science Educational Program for Junior High School Students)は、年によっては30人以上の希望者があり、理数教育拠点校としての役割を十分に果たしている。
- 地域学校協働活動では、地域住民から会場の確保をはじめとした様々な応援をいただくなど、生徒のバックアップをいただいている。
- 地元宮原まつり運営補助として、後片付けや清掃等へボランティア派遣を行ってきた。現在はコロナ禍で実施できていないが、自治会からも大変感謝されるとともに、地元の方との交流を通して本校生の実態を周知する良い機会となっている。